

# 第42回日本美容皮膚科学会総会・学術大会

日時 2024年8月31日(土) 11:40~12:40

場所 名古屋国際会議場  
第9会場 2号館2階 会議室222+223

〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町1-1

TEL: 052-683-7711

ランチョン  
セミナー9

唯一の国産エレクトロポレーション

「Mesona-J」～最新治療例と活用法～



## 【座長】

大阪大学形成外科招聘教授  
高田 章好 先生



## 【講演 1】

当施設の美容皮膚診療における

Mesona-Jの活用法について

KO CLINIC & Lab 院長  
黄 聖琥 先生



## 【講演 2】

メソナJ導入による経営戦略

～なぜメソナJを選択したのかも踏まえて～

千里中央りょうこスキンクリニック美容・形成外科 理事長  
西林 涼子 先生



【講演1】

当施設の美容皮膚診療におけるMesona-Jの活用法について

黄 聖琥 先生 (KO CLINIC & Lab 院長)

アジア人のSkin Rejuvenation治療においては、色素斑を破壊していくためのレーザー治療が必要になるが、一方で、肝斑、炎症後色素沈着、日焼けなどメラノサイトの刺激因子をコントロールするための保存療法も必須となる。また酒さや赤ら顔については、デバイス治療の適応が難しい場面もあり、病態に準じた外用や内服などの保存療法が優先される。エレクトロポレーション (EP) は適切な導入剤を選択することによって、このような機能性病変に対し、効果的な保存療法となりうる。EPの中でも当施設が主に使用しているMesona-Jは、電圧波形の工夫により皮膚刺激を緩和したり、目的の深さに導入するためのパルス幅の調整など、導入効率に優れた機能を持ち合わせている。

当施設では、画像診断に基づき適切な治療選択をして、表皮真皮の皮膚全層治療を行っている (カスタマイズ治療と称している)。レーザーやマイクロニードルRFなどの表皮真皮の器質的な治療を主体にしていくが多い。一方、難治性肝斑や酒さやアレルギーなどが主体にある症例は、メラノサイトの沈静化や酒さの原因である炎症反応を制御する必要があり、内服外用を主体にしながら、EPを始めとした保存治療を主体にすることが多い。講演では、実臨床を供覧しながらカスタマイズ治療におけるEPの役割について述べていく。

【講演2】

メソナJ導入による経営戦略

～なぜメソナJを選択したのかも踏まえて～

西林 涼子 先生 (千里中央りょうこスキンクリニック美容・形成外科 理事長)

エレクトロポレーションとは、皮膚に一過性の穴を開けて、ダウンタイムなく高分子の成分をも導入することができる経皮的ドラッグデリバリーのいち手段である。従来の経皮導入器よりも効果が高く上位互換に相当するとされ、またその中でもメソナJは国産開発された機器である。当院では開院当初は超音波導入およびイオン導入機を取り入れていたが、開院3年目にメソナJに魅力を感じ機器導入を決めた。類似機器も複数ある中で、比較するとやや高価であるメソナJを選択した決め手や、従来の経皮導入器も使用しながらの使い分け、価格設定や他治療との併用など、当院での経験を踏まえて導入から現在に至るまでの過程を公開する。

未承認機器